title: スマートなケイタイ

この作品は、寺町で行われていた灯りのイベントのリニューアルに伴い製作したものです。
以前は寺町全体に明かりを灯すイベントが行われていましたが、今年は寺町内の一つのお寺にスポットを当て、そのお寺の史実を基に灯りの作品を展開する運びとなりました。

今回、場所を提供していただいた「月峯山大覚寺」は、尼崎において最古の寺院であり、1400 年以上の歴史を誇ります。
長い歴史に比例して多くの記録が残されている中、今回灯りの素材として引用させていただいたのは、
14 世紀後半頃、細川氏一族が摂津・丹波の守護を務めていた時代の出来事です。

当時、瀬戸内や京都で異変が起こった際、迅速に情報を相互に伝達するため、狼煙による連絡網が構築されていました。
大覚寺の起源である燈炉堂は、その狼煙の起点の一つであったと伝えられています。

「通信網と灯り」この二つの要素を結びつける方法として、今回はスマートフォンの通知機能を活用し、作品化することにしました。

現代社会において、情報網は地球上に過密に入り乱れ、もしそれを可視化できるとすれば、大気の層よりも分厚い層が形成されているように感じられます。
そんな網目から垂れ下がった果実のような存在であるスマートフォンに、私たちは日夜かぶりついています。
スマートフォンで送受信できる情報は、網から無尽蔵に受け入れることも可能でしょうが、大体は個人の趣味嗜好や生活形態によって取捨選択され、スマホは短期間で割と正確にパーソナライズされます。
先ほど例えたように、網からぶら下がった四角いデフォルト形態の果実が、気がつけば自分の形をした実に熟しているといった感じでしょうか。
そんなスマホは、あなたの都合に合わせて様々な情報を伝えてきます。
朝になれば「起きろ」と知らせ、友人や家族、仕事関係の人からの連絡を届け、必要に応じて入れたアプリからも通知が届きます。
その通知をすべて画面の発光に置き換えれば、光のパターンや回数は、あなたと言う人間を説明する最も原始的な情報なのかも知れません。

膨大な情報を司る分厚い通信網によって「擬似あなた」が出来る時代に、擬似であるスマホは、都合良く音や光でアクションする仕組みを持っています。通信網と灯り＋街のイベント＋僅かなアート的野心≒スマートフォン作品が最良の着地点だと思いました。

もう一つの視点として、スマートフォンで受け取る情報は非常に具体的です。
何が起こったのかを即座に理解できる程度の情報が瞬時にやり取りされます。
しかし、パネルの中で受信されている具体的な情報は、パネル越しに鑑賞する皆さんには「きれい」や「おもしろい」といった一次的な感情しか伝わらないかもしれません。
あなたらしい具体的な情報は、「アート」という工夫を通して一旦分解され、全く異なる形に書き換えられてお届けしています。
この一時的感情だけ呼び起こす情報量は、「敵がやってくる！」みたいな狼煙の情報量と角を揃えたトランスレーションです。
一応アートなので、量は同じでも伝える内容は異なっているというだけです。

今回は、108 台のスマートフォンでパネルを構成します。
全てが制御された灯りであるはずなのに、実際には全く制御できない実験的な灯りの作品を、固唾を飲んで一緒に見届けましょう。

GERMAN
SUPLEX
AIRLINES

本日撮影した展示の映像は、
「てらまちプロジェクト HP」
で公開します。
ぜひダウンロードしてください。

てらまちプロジェクト
amagasaki-teramachi.jp